

---

 馬 耳 東 風

岩手県に住む友人からうれしい年賀状を頂いた。東京電力福島第一原子力発電所の事故で放置され、ボランティアの活動によって保護されていた福島県浪江町の犬を飼い始めたというのである。私も当時何とか1頭引き取って飼ってやりたいと思ったのだが、わが家にはすでに1頭、元放棄犬がいるので断念した経緯があった。そんなこともあってことさらうれしい年賀状であった。

私の家はすぐ近くにたんぼ道があり、犬と散歩するには絶好である。四季折々に変化する田園風景を眺めながらの散歩は心楽しい。犬も朝夕の散歩を心待ちにしているが、私の場合は、犬を散歩させるというよりは、犬に散歩させてもらっていると言った方が正確であろう。散歩の途中ではいろいろな犬と出会うが、色とりどりの服を着せられた犬も多い。私がか子供の頃と比べて愛犬家の数は随分増えているが、数だけではなく質というか愛情の注ぎ方も全く変わってきているのであろう。わが家のご近所で犬に服を着せている愛犬家たちは、たんぼ道の散歩が終わったあと、公園にある野球場の芝生に三々五々集まって談笑している。おそらく犬談義に花を咲かせているのであろう。それも楽しいだろうと思うのだが、犬に服を着せるというのがどうにもなじめなくて仲間に入れられない。犬には迷惑なことに違いないと考えるからなじめないでいるのだが、科学的にはどうなのであろうか、どなたかご教示くださればと思う。

愛犬家のマナーも随分良くなって来た。都会はもちろん、わが家の近所のたんぼ道であっても糞を入れるウンチングバッグを持たずに散歩している人は少数派である。

昔、花の都パリに行ったとき、街路の至る所に犬の糞が放置されているのに閉口したことがあるが、今はどうなのであろうか。ハイヒールは糞（ただし人の）を踏みつけないために考案されたという説があるそうだが、さもありませんと思わせる多さであった。数年前GDPが15位以内のある国で働いていたとき、ウンチングバッグを指さして何を持ち歩いているのかと質問され、黙って（説明できなかったから）中を見せたら大変に驚かれたことがあった。散歩させている犬の糞を持ち帰るなんて考えたこともない事柄だったのだろう。わが国は糞だけではない。近頃はペットボトルに消毒剤の入った水を持ち歩き、電信柱にかけたオシッコを洗い流す人を見かけるようになってきた。私も最近は真似をしている。

ところで、近所で出会う犬たちはわが家のような雑種は少数派である。大型ではゴールデンやラブラドル・レトリバー、シェパード、中型では黒柴をはじめ柴犬、小型ではミニチュアダックスフントやトイプードル、ジャックラッセルテリア、チワワ等、由緒正しそうな純粋犬が多数派である。おそらくペットショップで購入するのであろうが、ある時、「売れ残らないのだろうか？売れ残ったらどうするのだろうか？」という疑問が頭からはなれなくなってしまった。かつて私の愛犬が私のちょっとした不注意で子犬を5匹生んでしまい、嫁入り先、婿入り先探しに苦労した思い出がある。4頭の落ち着き先が決まり、最後に残った1頭をわが家で飼うことにした時の安堵感は今でもよく記憶している。

核家族化し、人間関係に神経をすりへらす現代人にとって犬はかけがえのない存在となっている。しかしその陰で犠牲となる犬が出るようなことのないようにと強く願っている。 (久)